巻頭言

—ともに学ぶということ–

今年度も皆様より多大なるお力添えを賜りましたことに対して，本部会を代表して，厚く御礼申し上げます。この数年，部会員の数が減少傾向にあることから，今年度は週例会の開催を中心とした活動を行ってまいりました。週例会では，文献の輪読やディスカッションを通して外国語教育研究に必要とされる基礎知識や統計手法に関する知識の構築を図ってまいりました。また，今年度より本部会の公式 Twitter を開設するなど，広報活動にも力を入れ，本部会のさらなる活性化を図ってまいりました。その結果，週例会には各所より毎週 10 名から 15 名ほどの方々にご参加いただき，運営委員，部会員共々感謝の念に堪えません。

さて突然ですが，週例会の様子を観察していた際，ふと，あることに気づきました。それは共同研究の重要性です。1 つの研究が完成するまでには，先行研究のレビューを行い，調査すべき研究課題を立て，その課題を解決するためのデータを収集した後，適切な手法を用いてデータを分析し，結果について議論するという手順を踏みます。恥ずかしながら，「こうした手順を適切に踏めるのであれば，1 人でも十分研究は行える」と，私はそう信じていました。しかしながら，週例会でのディスカッションの様子を見ていると，その考えは間違いであるということに気づきました。週例会に参加する部会員が増加するにつれ，ディスカッションが絶え間なく続くようになり，同時に，ディスカッションの内容も高度化して行ったのです。こうした経験から，「より多くの人が集まり，より多くの議論を交わすことで，研究は洗練されて行く。そして，それを可能とするのは共同研究である」と強く感じるに至りました。皆様からのお力添えにより，僭越ながら，私個人としてもステップアップする機会となりましたし，何より部会としても大きな成長を遂げた 1 年だったと実感しております。

本部会は，さらなる発展はもちろんのこと，多くの方々と研究の議論が交わせるようなプラットフォームを提供することを目指し，来年度も変わらず活動を行う所存です。それには，皆様からのご支援が不可欠でございます。より多くの方々にご参加いただけますよう，私を含め，運営委員で尽力してまいります。今後とも，皆様のご支援，ご理解を賜わりますよう，心よりお願い申し上げます。

三上　綾介
名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程
外国語教育メディア学会中部支部外国語教育基礎研究部会部会長